

目的：被服の機能のうち保健的機能に関する指導は、小・中・高ともに実習・実験と関連させて科学的に理解させやすいが、社会的機能の指導は生活的概念の域にとどまりがちである。特に、服装に対する興味・関心が強くなる中・高校生の社会的機能に関する指導は科学的根拠に基づいたものでなければならない。そこで第一段階として中学校における社会的機能の研究（授業実践を含む）を行った。本報は事前調査から授業実施までである。

方法：授業実践は昭和63年1～2月、実施校は大阪府八尾市立T中学校、対象は第1学年男子80名、女子66名、指導の領域は被服1である。事前調査は授業中における集合調査で主たる調査項目は基本属性、学習したい被服の内容、衣生活に関する意識及び実態である。事前調査の結果から、被服の社会的機能の授業について検討を行い、授業を実施した。

結果：①：ファッションの関心度は高く（男子36.3%、女子51.5%） ②：自分に似合う服装がわかっている（男子70.0% 女子84.9%） ③：外出着を選ぶ時、行き先を考えることに最も重点をおく（男子39.2% 女子54.5%） という衣生活意識と実態でありながら、④：着装の学習をしたいものは男女ほぼ同率（46.2% 47.7%）である。⑤：着装の学習をしたいもののうち、流行について学習したいというものが第1位（男子47.2% 女子64.5%）等の調査結果を得た。男女ともに社会的機能に関する着装の学習を望むものが多かった。このことは、男女ともに被服の社会的機能に対する興味・関心と学習意欲の存在、学習の必要性を示すものと考えられる。そこで、被服の社会的機能を取り入れた授業内容、方法を検討して授業実践を行った。